

ステップダウンDC-DCコンバータIC  
最新の同期整流方式で、超高効率

**MODEL BIC1222**

ヒートシンクが不要です  
夢のステップダウンICが誕生しました  
誰にでも簡単に高性能なDC-DCコンバータが作れます

## 同期整流高効率ICの仕様と応用

低価格で高信頼性ICを実現できるPOWER MCM-IC  
外付け部品が業界最小です

Bellnix PRODUCTS CATALOGUE

独創の技術を世界に提案する技術の **Bellnix**

**Bellnix**<sup>®</sup>

# Power IC BIC1222

## ■ 概要

BIC1222は高効率を実現する同期整流方式チョッパ制御部とメイン・スイッチのNチャンネルMOSFET、同期整流用 LOW サイドMOSFET をMCM (マルチチップモジュール) にしたPOWER-IC です。 出力電流は5Aまでの大電流に対応し、入力電圧範囲に於いては8V~20Vに対応しています。機能においても、過電流保護回路、過熱保護回路、ON/OFF 機能、等の機能を面実装のワンパッケージICに収めたので、非常に少ない外付け部品で小型・軽量のDC-DCコンバータを実現する事ができます。

## ■ 特徴

- ・入力電圧範囲 (DC8~20V)
- ・出力電圧 2.5~12V外部抵抗にて任意に可変可能
- ・最大出力電流 5.0A (出力5.3Vを超える時はディレーティングが必要)
- ・出力メインスイッチ用 MOSFET、転流用 MOSFET 内蔵
- ・過電流保護機能内蔵
- ・過熱保護回路内蔵
- ・ON/OFF 機能
- ・鉛フリー対応

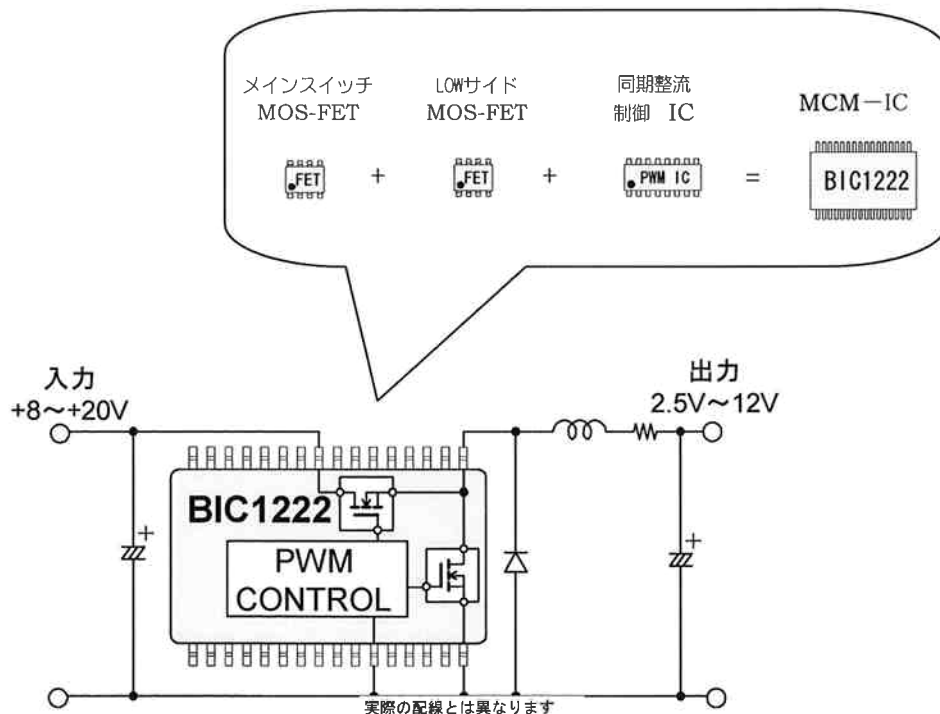
## ■ 用途

- ・情報機器
- ・携帯用計測機器
- ・デジタル家電
- ・OA機器
- ・コンピュータ周辺機器
- ・映像機器
- ・電子測定器
- ・制御、設備機器

## ■ 製品呼称

単品呼称: BIC1222

梱包形態はテーピング品のみに対応になります。



■ 最大定格 (Ta=25°C)

項目	記号	定格値	単位
電源電圧	Vin	22	V
出力MOS入力電圧	Vdd	22	V
出力電流 (AVE)	Iout ave	5	A
出力電流 (PEAK)	Iout peak	6	A
OCL-, OCL+ 端子印加電圧	VocL	5.5	V
リモートコントロール印加電圧	Vrc	5.5	V
保存温度	Tstg	-40~150	°C
接合温度	Tj	150	°C

■ 電気的特性 (Ta=25°C)

項目	記号	条件	MIN	TYP	MAX	単位
HighsideMOS ドレイン・ソース降伏電圧	Vdss	Id=1mA, Vgs=0V	22	—	—	V
HighsideMOS ドレイン遮断電流	Idss	Vds=20V, Vgs=0V	—	—	10	μA
HighsideMOS ドレイン・ソース間オン抵抗	Ron	Id=1.2A, Vgs=4.5V	—	22	55	mΩ
HighsideMOS ソース・ドレインDi順電圧	Vsd	Is=1.2A, Vgs=0V	—	—	1.5	V
LowSideMOS ドレイン・ソース降伏電圧	Vdss	Id=1mA, Vgs=0V	22	—	—	V
LowSideMOS ドレイン遮断電流	Idss	Vds=20V, Vgs=0V	—	—	10	μA
LowSideMOS ドレイン・ソース間オン抵抗	Ron	Id=1.2A, Vgs=4.5V	—	22	55	mΩ
LowSideMOS ソース・ドレインDi順電圧	Vsd	Is=1.2A, Vgs=0V	—	—	1.5	V
起動電圧	Vcc_start	—	6.5	7.2	7.9	V
停止電圧	Vcc_stop	—	6	6.7	7.4	V
起動-停止電圧ヒステリシス	Vcc_hys	—	—	0.5	—	V
消費電流 (動作時)	Icc	Vcc=8V~20V	—	10	13	mA
リモートOFF時消費電流	Icc_off	Vcc=8V~20V	—	1.2	1.5	mA
リモートコントロール 端子 ON 電圧	Vrc_on	Vcc=8V~20V	-0.2	—	0.5	V
リモートコントロール 端子 OFF 電圧	Vrc_off	Vcc=8V~20V	2.5	—	5.3	V
リモートコントロール 端子 短絡電流	Irc	Vcc=8V~20V	—	—	250	μA
BOOT端子電圧	Vboot	Vcc=12V	5.4	6.5	7.6	V
内部基準電圧	Vref	Vcc=8V~20V	4.75	5	5.25	V
内部発振周波数	fosc	Vcc=12V	212.5	250	287.5	kHz
過電流しきい値電圧	Vth_OCL	Vcc=12V	0.162	0.19	0.218	V
SoftStart端子電流	Is/s	Vcc=12V	-20	-12.5	-5	μA
Error Amp 基準電圧	Vamp	Vcc=8V~20V	2.4	2.45	2.5	V
過熱保護動作温度	T_TSD	—	—	150	—	°C

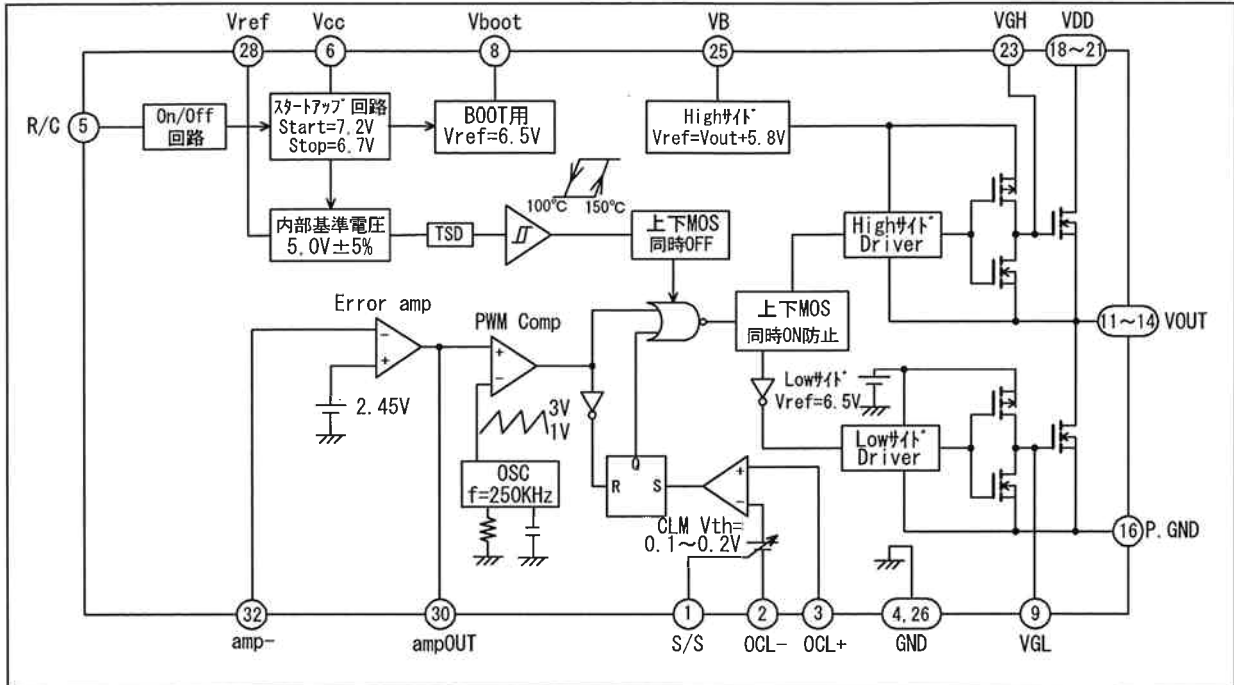
■ 推奨動作条件

項目	推奨値	単位
入力電圧 (Ta=-10°C~+85°C)	8~20	V
入力電圧 (Ta=-30°C~-10°C)	8.5~20	V
出力電圧設定範囲	2.5~12	V
動作温度	-30~85	°C

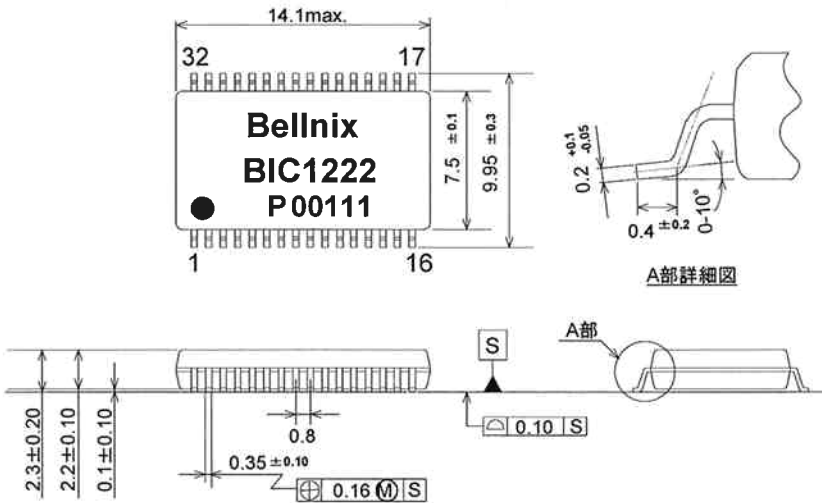
■ 出力電圧-電流レギュレーション条件

出力設定電圧	出力電流
2.5V ~ 5.3V	5A
≤ 8V	3A
≤ 12V	2.5A

## ■ ブロック図



## ■ 外形寸法

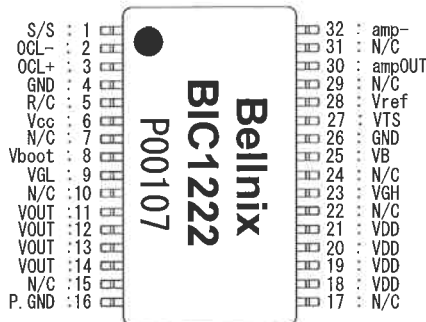


単位: mm

端子母材: Cu  
端子処理: Ni/ Pd/ Auメッキ

ケース: 黒色エポキシ樹脂 (UL94 V-0)

## ■ 端子機能説明



端子番号	端子記号	機能説明
1	S/S	ソフトスタート用コンデンサ接続端子です。
2	OCL-	過電流-検出端子です。
3	OCL+	過電流+検出端子です。
4, 26	GND	グラウンド端子です。
5	R/C	リモートON/OFFコントロール端子です。
6	Vcc	制御回路の電源端子です。
8	Vboot	メインスイッチ MOSFET制御回路の電源端子です。
9	VGL	同期整流用 Lowサイド MOSFETのゲート端子です。
11~14	VOUT	パワー段の出力端子です。
16	P. GND	出力回路の接地端子です。
18~21	VDD	メインスイッチ MOSFETの電源端子です。
23	VGH	メインスイッチ Highサイド MOSFETのゲート端子です。
25	VB	出力ブートストラップ端子です。 VB端子とVOUT端子の間にコンデンサを接続してIC内部のMOSFETの制御用回路をブートストラップします。
27	VTS	試験用端子です。どこにも接続しないで下さい。
28	Vref	内部基準電圧出力端子です。
30	ampOUT	内蔵誤差増幅器出力端子です。
32	amp-	内蔵誤差増幅器反転入力端子です。
7, 10, 15, 17 22, 24, 29, 31	N/C	NO CONNECTIONの端子です。

## ■ 端子機能説明

### 1、内部基準電圧 (Vref)

温度補償された基準電圧 (≒5.0V) でIC内部の基準電圧として使用されます。Vref端子からは最大1mAまで外部に取り出せます。

### 2、発振回路 (OSC)

IC内部で発振周波数 (≒250KHz)の鋸歯状波を発生させてます。発振器用にC,Rの付加部品は不要で、この波形は外部に出力はされません。

### 3、誤差増幅器 (Error amp)

誤差増幅器はDC/DCコンバータの出力電圧を検出し、PWM制御信号を出力する増幅器です。誤差増幅器のamp-端子への帰還抵抗及びコンデンサの接続により、任意のループゲインが設定できるため、システムに対して安定した位相補償が出来ます。

### 4、過電流検出 (OCL)

OCLはパルスバイパルス方式の過電流検出です。外付けの電流検出抵抗の電圧ドロップをOCL+端子とOCL-端子で検出し、その電圧がある一定値 (≒0.19V)以上になるとメインスイッチのMOSFETをオフさせます。

### 5、リモートON/OFF (R/C)

出力電圧をON/OFFさせるリモート端子です。  
出力ON : 0~0.5V。 (本端子をGNDに接地)  
出力OFF : 2.5~5.3V。 (本端子をオープン)

### 6、ソフトスタート (S/S)

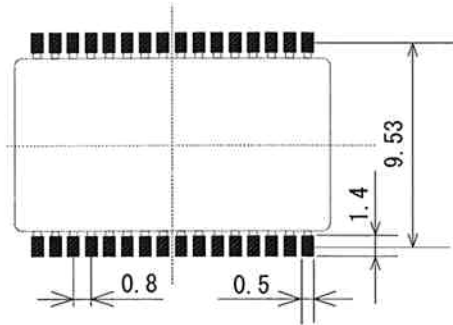
ソフトスタート用のコンデンサ接続端子です。  
本端子にソフトスタート用のコンデンサを接続する事により起動時間を遅らせます。  
本端子には0.1μF程度のコンデンサを接続してください。

# Power IC BIC1222

## ■ 実装方法

### 1. 参考ランド寸法

実装用推奨パッド寸法を示します。



### 2. 実装上の注意

実装時に機械的衝撃等により、部品内部に過大なストレスを与えないよう十分な注意をしてください。

### 3. はんだ付け条件

実装方法としては赤外線リフロー法を推奨いたします。はんだ付け時間が長すぎたり、はんだ付け温度が高すぎたりしますと、本ICの機能を損なう場合がありますので、当社の指定条件内でご使用ください。

#### 1) 赤外線リフロー法

リフロー法での温度プロファイルは右図のとおりです。

#### 2) ウェイブソルダー条件

##### ・予備加熱条件

ケース中央温度 : 80~140°C

予備加熱時間 : 30~60sec

##### ・加熱条件

はんだ温度 : 265±5°C

加熱時間 : 10±1sec

##### ・加熱回数 : 1回

##### ・注意事項

半田ブリッジはランドの影響を受けますので、基板設計時等で考慮して下さい。

#### 3) 保管条件

防湿梱包開梱後、温度30°C、相対湿度70%以下の環境下で168時間以内。

#### 4) ベーキング条件

125°Cにて24時間以内で1回。(耐熱トレイに載せ替えて下さい)

#### 5) ハンダゴテ法

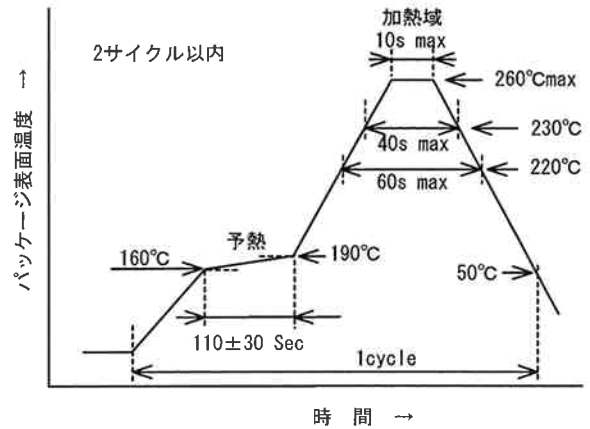
はんだごてにて作業する場合は下記の範囲で実施して下さい。

・コテ先温度 : 380±10°C

・加熱時間 : 3±1sec

・加熱回数 : 1回

### 赤外線及びエアリフローはんだ付け条件



### 4. 洗浄

フラックスや洗浄剤の残渣が残らないよう十分洗浄して下さい。洗浄後は洗浄剤が残らないように完全に乾燥させてください。

### 5. 樹脂コーティングについて

実装後に樹脂で再モールドする場合、樹脂のキュアストレスが強いと部品にストレスを与える事があります。樹脂の選択と硬化時間には十分に注意して下さい。

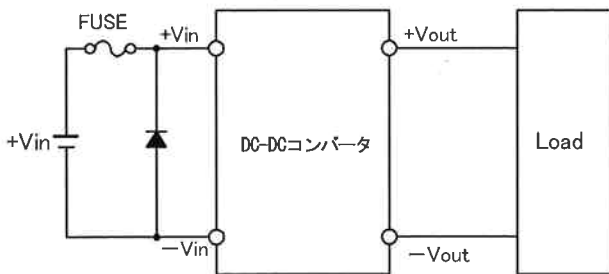
# Power IC BIC1222

## ■ 使用方法

### 1. 入力保護、逆接防止方法

BIC1222 は非絶縁型で正極から正極へステップダウンさせる DC-DCコンバータ用のパワーICです。本ICは過電流保護機能が有りますが、万が一ICの故障で入力に過大な電流が流れた場合の発煙、発火防止の為、入力ラインへは必ずヒューズ等の保護素子を接続してください。

なお、保護素子は+ラインに挿入し、DC-DCコンバータの入力側電源は保護素子を切断できる容量を持たせてください。又、ダイオードを接続する事により、入力の逆接続の保護になります。

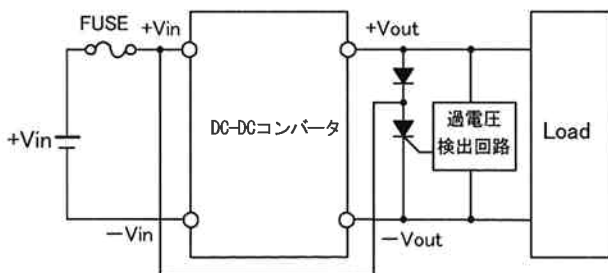


### 2. 過電圧保護回路

BIC1222 は過電圧保護回路を内蔵しておりません。万が一パワーICがショートモードで破損した場合、入力電圧がそのまま出力に現れるモードになります。発煙、発火防止の為、過電圧保護回路は必ず付加してください。

又、供給側の電源はヒューズなどの保護素子を切断できる容量を持たせてください。

過電圧保護回路参考例



## ■ リモートON/OFF機能

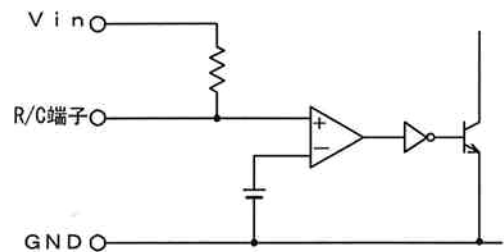
(R/C) 端子を使用することにより、入力投入、切断することなく出力をOn/Offする事が出来ます。

出力ON : 0~0.5V (R/C端子をGNDに接地)

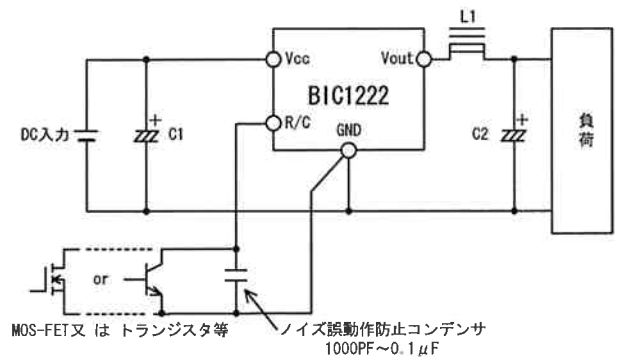
出力OFF : 2.5~5.3V (R/C端子をオープン)

- リモートOn/Off機能を使用しない場合はR/C端子(5番ピン)をGND(4,26番ピン)に接続してください。
- R/C端子は半導体スイッチ(トランジスタ、MOS-FET)でON/OFF制御できます。この時5ピン-4,26ピン間にノイズ誤動作防止用コンデンサ(1000PF~0.1μF)を付加してください。
- MCM内部にてプルアップしてありますのでR/C端子に電圧を外部より印加する必要はありません。

### 1. R/C端子内部等価回路



### 2. R/C端子の接続方法



■ 標準接続図

BIC1222 は同期整流型チョッパ方式用に開発されたパワーICです。本ICは制御部IC部分とハイサイド及び、転流用のローサイドMOSFET等の主要な部品をワンパッケージ化したもので、外部にチョーク及びコンデンサなどの周辺部品が必要になります。

外部接続部品の特性や実装配置の実装方法により特性が大きく変わる事が有ります。実使用に合った適切な外部接続部品を選択する事を推奨致します。

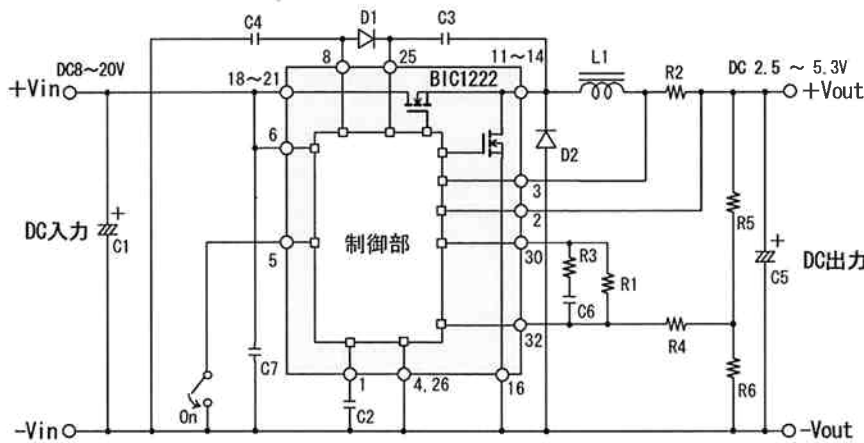
BIC1222は外部抵抗により出力電圧を2.5V~12Vまで任意に変化する事が可能です。設定する出力電圧に応じた接続を行ってください。

1. 出力電圧を5.3V以下で使用の場合

1) 基本的な接続

- 9、23、27番ピンは試験端子です。どこにも接続しないで下さい。
- 7、10、15、17、22、24、29、31番ピンはNC端子（内部未接続）です。
- 標準接続図に示した部品は必ず付加してください。
- 出力の平滑コンデンサ（C5）は低 ESR 品をご使用ください。

2) 標準接続図



3) 出力電圧設定抵抗について

出力電圧はR5とR6により決定されます。

$$R6 = 2.2K\Omega$$

$$R5 = \frac{R6 \times (Vout - 2.45)}{2.45} (\Omega)$$

- 出力電圧設定例（R6=2.2KΩの場合）
  - 2.5V設定、 R5=47Ω
  - 3.3V設定、 R5=770Ω（300Ω+470Ω）
  - 5.0V設定、 R5=2.3KΩ（1KΩ+1.3KΩ）

出力電圧設定抵抗（R5, R6）は温度特性及び精度の高い抵抗をご使用ください。

4) 参考部品

標準部品による参考部品を下記に示します。  
諸条件により、多少定数が変わる事があります。

部品番号	品名	適用電圧 3.3V/5V 参考部品		タイプ・メーカー
		出力電流例		
		3A	5A	
IC1	MCM-IC	BIC1222	BIC1222	(株)ベルニクス
L1	チョークコイル	18μH、3.6A	10μH、6A	
D1	ダイオード	1SS300	1SS300	東芝(株)
D2	ショットキダイオード	D1FS4A	M2FM3	新電元(株)
C1	電解コンデンサ(並列)	25V、220μF 760mA×2	25V、470μF 1250mA×2	ルビコン(株)
C2	セラミックコンデンサ	25V、0.047μF	25V、0.047μF	GRM39タイプ° or C1608タイプ° 村田(株) or TDK(株)
C3	セラミックコンデンサ	25V、0.1μF	25V、0.1μF	
C4	セラミックコンデンサ	50V、1000pF	50V、1000pF	
C5	電解コンデンサ(並列)	10V、680μF 53mA×2	10V、1200μF 23mA×2	ルビコン(株)
C6	セラミックコンデンサ	25V、1000pF	25V、1000pF	GRM39タイプ° or C1608タイプ°
C7	セラミックコンデンサ	25V、0.1μF	25V、0.1μF	
R1	抵抗	0.1W、1MΩ	0.1W、1MΩ	
R2	抵抗(並列)	0.75W、0.1Ω±5%×2	0.75W、0.062Ω±5%×2	
R3	抵抗	0.1W、100KΩ	0.1W、100KΩ	
R4	抵抗	0.1W、10KΩ	0.1W、10KΩ	
R5	抵抗	3) 項 出力電圧設定抵抗より算出		
R6	抵抗	0.1W、2.2KΩ±0.5%	0.1W、2.2KΩ±0.5%	

5) 電気的特性

参考部品定数で回路を構成し実測した参考データを下記に示します。  
上記仕様に条件の指定がない場合、入力12V、出力は定格電流です。

(Ta=25℃)

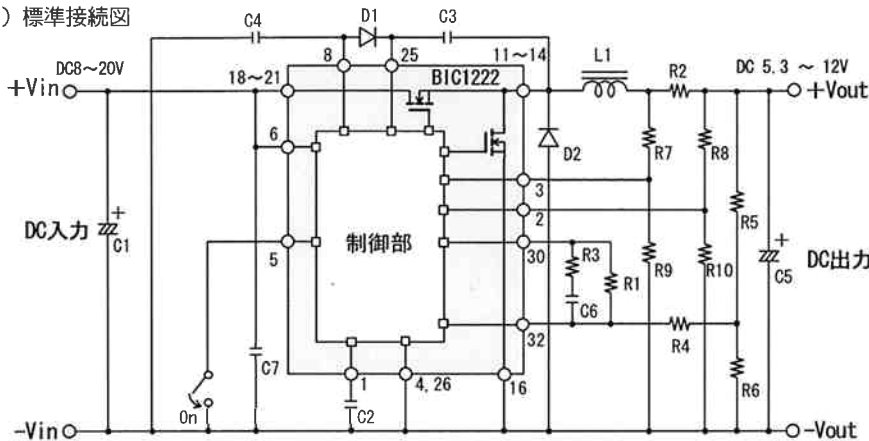
項目	単位	出力電流					
		3A			5A		
出力電圧	V	2.5	3.3	5.0	2.5	3.3	5.0
入力電圧	V	8~20					
出力電流	A	0~3			0~5		
定電圧精度	%	±5					
効率	%	87	89	92	83	87	91
発振周波数	KHz typ	250					
リップル・ノイズ	mVp-p	25					
過電流保護動作	A	定格電流以上で動作/自動復帰					
動作周囲温度	℃	-10~85					

2. 出力電圧を5.3V以上で使用の場合

1) 基本的な接続

- 9、23、27番ピンは試験用端子です。どこにも接続しないで下さい。
- 7、10、15、17、22、24、29、31番ピンはNC端子（内部未接続）です。
- 標準接続図に示した部品は必ず付加してください。
- 出力の平滑コンデンサは低 E<sub>sr</sub> 品をご使用ください。

2) 標準接続図



3) 最低必要入力電圧について

本MCM-ICの回路方式（降圧型）は最大On-Dutyは約70%に設定されており、入力電圧と出力電圧の差が必要です。出力電圧を5.6V以上に設定する場合は最低入力電圧を下記のように求めてください。

$$V_{in}(\min) \geq \frac{V_{out}}{0.7} (V)$$

4) OCL+, OCL- 端子の接続について

出力電圧を5.3Vを越えた値に設定される場合は、OCL-, OCL+ (2、3ピン) 端子電圧が5.3V以下になるようにR2、R7、R8、R9、R10、の抵抗値を決定してください。

$$R9 = R10 = 1 \text{ k}\Omega$$

$$R7 = R8 \geq \frac{(V_{out} + 0.2) - 5.3}{5.3} [\text{K}\Omega]$$

$$R2 = \frac{(1 + \frac{R7}{R9}) \times 0.19}{I_o(\text{OCP})} [\Omega]$$

出力電圧が5.3Vを越える場合はR7、R8、R9、R10でブリッジ回路を構成します。このブリッジ回路の抵抗値の精度は過電流保護回路の動作点に大きく影響しますので、精度の高い抵抗（R7~R10は±0.5%以下、R2は±5%以下）を選定してください。

5) 出力電圧設定抵抗について

出力電圧はR5とR6により決定されます。

$$R6 = 2.2 \text{ K}\Omega$$

$$R5 = \frac{R6 \times (V_{out} - 2.45)}{2.45} (\Omega)$$

- 出力電圧設定例（R6=2.2KΩの場合）

9V設定、 R5=5.9KΩ (2KΩ+3.9KΩ)

12V設定、 R5=8.6KΩ (5.6KΩ+3KΩ)

出力電圧設定抵抗（R5、R6）は温度特性及び精度の高い抵抗をご使用ください。

6) 参考部品

標準部品による参考部品を下記に示します。 諸条件により、多少定数が変わる事があります。

部品番号	品名	出力電圧 5.3V ~8V		出力電圧 8V ~12V	
		出力電流例		出力電流例	
		2A	3A	1A	2.5A
IC1	MCM-IC	BIC1222	BIC1222	BIC1222	BIC1222
L1	チョークコイル	47 $\mu$ H、2.4A	33 $\mu$ H、3.6A	120 $\mu$ H、1.5A	47 $\mu$ H、3A
D1	ダイオード	1SS300	1SS300	1SS300	1SS300
D2	ショットキダイオード	D1FS4A	D1FS4A	D1FS4A	D1FS4A
C1	電解コンデンサ	25V、330 $\mu$ F 1030mA	25V、680 $\mu$ F 1820mA	25V、220 $\mu$ F 760mA	25V、470 $\mu$ F 1250mA
C2	セラミックコンデンサ	25V、0.047 $\mu$ F	25V、0.047 $\mu$ F	25V、0.047 $\mu$ F	25V、0.047 $\mu$ F
C3	セラミックコンデンサ	25V、0.1 $\mu$ F	25V、0.1 $\mu$ F	25V、0.1 $\mu$ F	25V、0.1 $\mu$ F
C4	セラミックコンデンサ	50V、1000pF	50V、1000pF	50V、1000pF	50V、1000pF
C5	電解コンデンサ	16V、680 $\mu$ F 38m $\Omega$	16V、1000 $\mu$ F 23m $\Omega$	16V、330 $\mu$ F 72m $\Omega$	16V、680 $\mu$ F 38m $\Omega$
C6	セラミックコンデンサ	25V、1000pF	25V、1000pF	25V、1000pF	25V、1000pF
C7	セラミックコンデンサ	25V、0.01 $\mu$ F	25V、0.01 $\mu$ F	25V、0.01 $\mu$ F	25V、0.01 $\mu$ F
R1	抵抗	0.1W、1M $\Omega$	0.1W、1M $\Omega$	0.1W、1M $\Omega$	0.1W、1M $\Omega$
R2	抵抗	4) 項 OCL+、OCL-端子の接続 より算出			
R3	抵抗	0.1W、100K $\Omega$	0.1W、100K $\Omega$	0.1W、100K $\Omega$	0.1W、100K $\Omega$
R4	抵抗	0.1W、10K $\Omega$	0.1W、10K $\Omega$	0.1W、10K $\Omega$	0.1W、10K $\Omega$
R5	抵抗	5) 項 出力電圧設定抵抗より算出			
R6	抵抗	0.1W、2.2K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、2.2K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、2.2K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、2.2K $\Omega$ $\pm$ 0.5%
R7	抵抗	4) 項 OCL+、OCL-端子の接続 より算出			
R8	抵抗				
R9	抵抗	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%
R10	抵抗	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%	0.1W、1K $\Omega$ $\pm$ 0.5%

7) 電気的特性

参考部品定数で回路を構成し実測した参考データを下記に示します。

上記仕様に条件の指定がない場合、入力12V、出力は定格電流です。

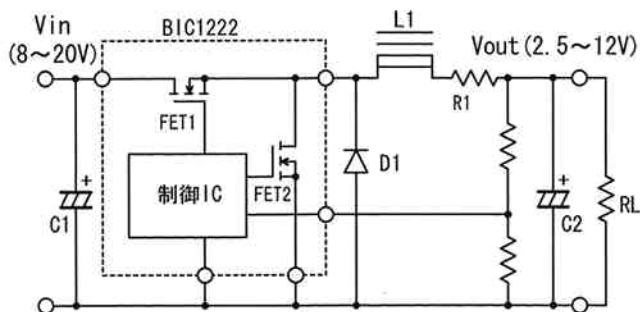
(Ta=25°C)

項目	単位	出力電流例			
		1A		2.5A	
出力電圧	V	9	12	9	12
入力電圧	V	13~20	17.5~20	13~20	17.5~20
出力電流	A	0 ~ 1		0 ~ 2.5	
定電圧精度	%	$\pm$ 5			
効率	%	94	94	95	95
発振周波数	KHz typ	250			
リップル・ノイズ	mVp-p typ	25			
過電流保護動作	A	定格電流以上で動作/自動復帰			
動作周囲温度	°C	-30 ~ 85			

## ■ 基本動作説明

本Power IC BIC1222 は同期整流型ステップダウンチョッパ方式を採用しております。この方式はDC-DCコンバータの効率が非常に高く、小型でありながら大電流を供給できます。

### 1、基本回路



FET1 :メインスイッチ用MOSFET

FET2 :転流用MOSFET

D1 : 転流用ダイオード

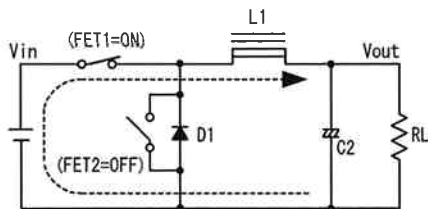
R1 : 過電流検出抵抗

C1 : 入力コンデンサ

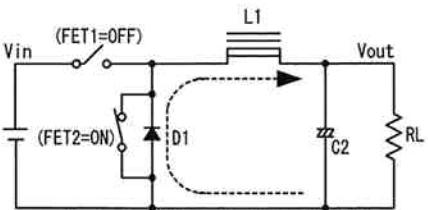
C2 : 平滑用コンデンサ

一般的なステップダウン型チョッパコンバータでは転流回路部がダイオードD1だけの構成となりますが、同期整流型ではこの転流ダイオードと並列にFET2を接続し、効率アップさせています。又、従来ではメインスイッチにFETを使用する場合P-チャンネルを採用するのが一般的でしたが、本Power IC BIC1222 では内部にBoost回路を設け、N-チャンネルのMOSFETでメインのスイッチを行っております。この事により効率もアップできます。

### 2、メイン電流のルート



(a) ton時のメイン電流の流れ



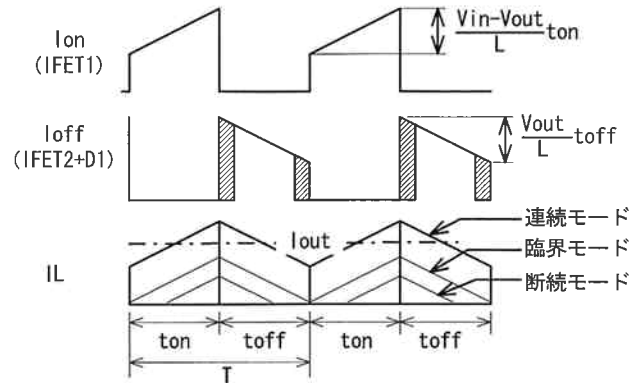
(b) toff時のメイン電流の流れ

ton 時 : FET1 を通ってL1に電流が流れ込む。

toff 時 : L1に蓄えられた励磁電流がFET2 (D1) を通り転流。

### 3、メイン電流波形

ton 時とtoff 時のメイン電流は下図のような波形となります。



toff 時にチョークの励磁電流が D1,FET2 を通って転流しますが、斜線部の区間ではD1を通り、真ん中の部分ではFET2を通ります。

チョークに流れる電流のモードは3つのモードがあります。定格負荷時などの直流が重畳されたモードを連続モードと言い、軽負荷に於いて、チョークに流れる電流が断続となるモードを断続モードといいます。又、連続モードと断続モードの境の部分を臨界モードと言います。

連続モードの場合、tonの期間にチョークに加わる電圧はVin-Voとなるので、電流の傾きΔILは

$$\Delta I_L (\text{ton}) = \frac{V_{in} - V_o}{L} \times \text{ton}$$

となります。次にFET1がoffすると、インダクタンスに流れていた電流は同じ方向に流れようと維持する為、D1,FET2 を通って転流を開始します。転流電流はFET1がoffする直前の電流値と同一の電流が流れ、L1の両端には出力電圧と同じ電圧が加わるので、off時の電流の傾きΔILは

$$\Delta I_L (\text{toff}) = \frac{V_o}{L} \times \text{toff}$$

となり、連続モードの場合、電流の傾きΔILは同じなので、

$$V_o = \frac{\text{ton}}{\text{ton} + \text{toff}} \times V_{in} = \frac{\text{ton}}{T} \times V_{in}$$

となります。

平滑チョークのインダクタンスを求める場合、臨界動作を定格電流の15~20%になるように設計します。

従いまして、インダクタンスは下記の式で求められます。

$$L = \frac{V_{in} - V_o}{\Delta I_L} \times \text{ton} = \frac{V_{in} - V_o}{(0.15 \sim 0.2) \times I_o \times 2} \times \frac{V_o}{V_{in} \times f}$$

# Power IC BIC1222

## ■ 設計手順

次の順序で付加部品の設計を行います。

- 1 過電流検出抵抗 (R1) の選定
- 2 平滑チョーク (L1) の選定
- 3 平滑コンデンサ (C2) の選定
- 4 入力側コンデンサ (C1) の選定

### 1. 過電流検出抵抗 (R1) の求め方 (Vout=5.3V以下時)

出力に流れる電流を抵抗R1のドロップ電圧にて検出します。

抵抗にて発生する電圧が0.19V±15%にてパルス パイ パルス方式の過電流保護回路が動作いたします。

$$R1 = \frac{V_{th}}{I_{ocp}} [\Omega]$$

Vth : 過電流検出電圧 (0.19V±15%)

Iocp : 過電流動作ポイント

過電流動作ポイントは最大出力電流の110~120%にします。

過電流動作ポイントはスイッチングノイズの影響により、若干計算値と異なる場合があります。又、検出抵抗の温度特性によっても変わってくる場合が有りますので、実機にて確認してください。

### 2. 平滑チョークコイル (L1) の求め方

一般的な設計では、平滑チョークコイルの電流が定格負荷時は連続モードで、軽負荷時は断続モードになります。このモードが切り替わる臨界値が定格電流の15~20% なるようにインダクタンス値を求めます。

$$L1 = \frac{(V_{in(max)} - V_o) \times V_o}{\Delta IL \times V_{in(max)} \times f} [H]$$

Vin(max) : 入力電圧(最大値)

Vo : 出力電圧

ΔIL : 臨界動作時の出力電流 (Io)の2倍

臨界値は定格出力電流の15~20% が一般的です。  
(0.15~0.2×Io×2)

f : 発振周波数 (f ≒ 250KHz 固定)

チョークコイルの選定にあたっては、過電流領域においても チョークコイルが飽和しないように、直流重畳特性に注意してください。

### 3. 出力平滑コンデンサ (C2) の選定

出力(平滑)コンデンサのインピーダンスにより、出力のリプル電圧が決まるので、出力のリプル電圧を小さく抑えたい場合は高周波にてインピーダンス (Zc)の小さいものを選定してください。

$$Z_c = \frac{V_{rip}}{\Delta IL}$$

Vrip : 出力のリプル電圧 (抑えたい値 例 : 30mVp-p)

ΔIL : 臨界動作時の出力電流 (Io)の2倍

出力のコンデンサには臨界動作時の出力電流 (Io) とほぼ同じリプル電流が流れます。コンデンサ選定時にはこのリプル電流も考慮してください。

### 4. 入力側コンデンサの (C1) 選定

本方式 (ステップダウン・チョッパー) のコンバータの入力側コンデンサにはICがスイッチングする事により、リプル電流が流れます。入力側コンデンサに流れるリプル電流は入力電流と同じように、出力電流が多いほど流れ、入力電圧が低いほどデューティが広がり、リプル電流も多く流れます。

計算式より求められた値よりも、許容リプル電流 (Irip)の大きなものを選定してください。

入力側コンデンサの実装にあたってはPower ICの近くに配置し、パターンによるインダクタンスが小さくなるようにして下さい。

$$D = \frac{V_o}{V_{in(min)}}$$

$$I_{rip} = \sqrt{D(1-D)} \times I_o$$

D : デューティ (Ton/T)

Vo : 出力電圧

Vin (min) : 最小入力電圧

Io : 出力電流

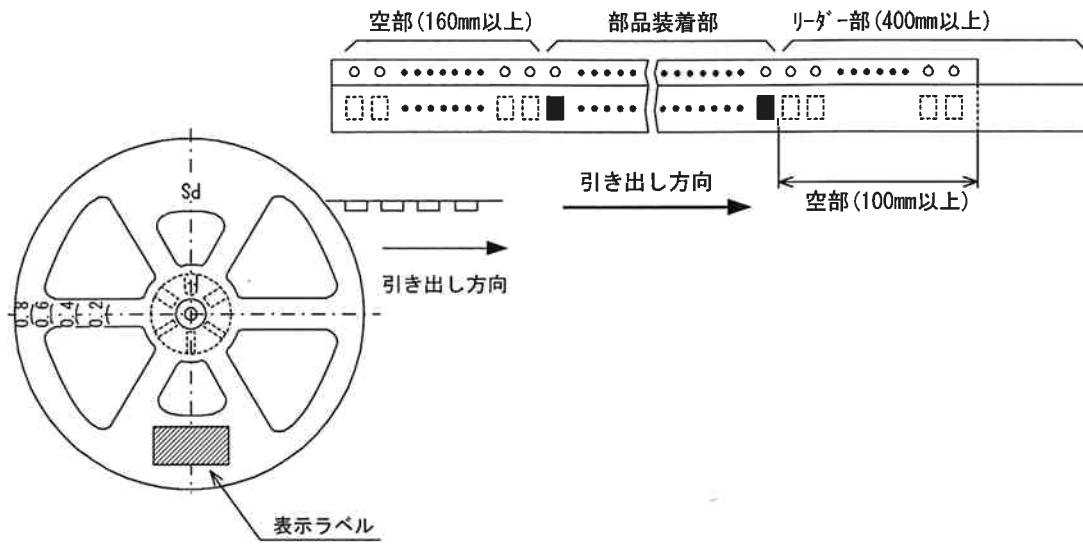
### 5. 熱設計

BIC1222 はプリント基板のパターンにハンダ付けする事により放熱させます。

本Power IC は入力電圧、出力電圧、出力電流、等の条件により温度上昇値が異なります。 ケース表面温度が105℃以下で動作するように設計してください。



3. リーダー仕様



## ■ 使用にあたってのお願い。

- 本製品は、一般電子機器（通信機器、事務機器、測定機器、家電製品）に使用される事を意図としております。本製品の誤動作や破損が直接人命・財産に影響を与える恐れのある医療機器、原子力機器、列車等には使用しないでください。
- 修理や改造、及び規格外での使用は重大な事故につながりますので、絶対にやめてください。万が一、本製品を誤った、又は規格外の方法で使用された結果の損害について弊社は一切責任を負いません。
- 異常時には出力端子に過大な電圧が発生したり、電圧低下となる事があります。異常時の、装置における誤動作や破損を想定した保護回路（過電圧保護、過電流保護など）を最終装置・機器に組み込んでください。
- 決められた規格（入力電圧、使用温度等）を必ず守って使用いただくとともに、入力ラインには必ず保護素子を挿入してください。また、使用時には各極性（入力、出力）を確認し誤配線の無い事を確認してから通電してください。《誤った使用方法は発煙、発火の原因になります。》
- 本製品は過電圧保護回路は持っておりません。万が一モジュール内の異常で出力に過電圧が発生した場合、運転を停止させても入力電圧が出力にそのまま現れるモードが有り発煙・発火につながる事もあります。これらを防止する為に必ず過電圧保護回路を付加してください。  
《過電圧が発生した場合、本 I C のリモート ON / OFF 端子は機能いたしません》
- ここに記載された資料の内容は正確かつ信頼し得るものでありますが、これらの資料の使用によって起因する損害又は特許権その他権利の侵害に関しては、当社は一切の責任を負いません。
- 本資料によって第三者の特許権その他権利の実施に対する保証または実施権の承諾を行う物ではありません。
- 本資料の一部または全てを当社に無断で転載または複製をすることは堅くお断りいたします。

## 本戦略物資等輸出規制について

- 本製品は、輸出貿易管理令別表第 1 の 7 の項、通産省令第 6 条の集積回路に区分されます。
- 本製品は K N O W 規制の対象品です。

# Bellnix®

株式会社ベルニクス

埼玉県さいたま市南区根岸5-7-8 〒336-0024

TEL:048-864-7733 FAX:048-861-6402

E-mail:info@bellnix.co.jp

URL <http://www.bellnix.co.jp/>

製品改良の為に予告なく仕様を変更する事があります。

PRINTED IN JAPAN BDD20050704



夢と創造